環境情報Magazine

2020 Spring VOL.10

全国ユース環境ネットワーク

環境省
Ministry of the Environment

独立行政法人
環境再生保全機構
ERCA

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS
Institute for the Advanced Study of Sustainability

第５回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

2020年２月８日(土)、９日(日) の２日間、東京・渋谷区にある国連大学と東京駅近くの小ホールで「第５回全国ユース環境活動発表大会」が開催されました。表彰式には、中井徳太郎環境省総合環境政策統括官が出席し、あいさつをされました。

ご 挨 拶

環境省
総合環境政策統括官
中井 徳太郎

ただ今、御紹介いただきました環境省総合環境政策統括官の中井です。
第５回全国ユース環境活動発表大会 全国大会の閉会に当たり、ひとこと御挨拶申し上げます。
さて、本年度の大会は、全国８地区における地方大会に162団体の高校生の皆様が参加されたと聞いています。そして、各地方大会で優秀な発表をされた16校が、本日、一堂に会して全国大会が開催されました。
いずれの高校も、素晴らしい発表をありがとうございました。発表いただいた活動は、環境を守り地域を元気にするもの、継続的な調査活動を環境活動につなげるもの、課題解決のための技術開発、国際協力、実践活動など、どれも甲乙つけがたく、皆様が日頃から話し合いながら、力を合わせて一生懸命活動してくれていることが伝わってきました。環境省として深く敬意を表するとともに、私も皆様から元気をいただきました。
御存知の通り、豊かな地球環境を守り、人類が地球上で持続的に発展していく社会を目指して、国際社会ではSDGs達成に向けた多くの取組が進められています。SDGsの達成に向けては、近代の大量生産・大量消費に基づく経済発展で私達が置き去りにしてきたものに気づき、課題を理解し、その上で、自分にできるところから行動してみる、この一人一人の「気づき、理解、行動」の積み重ねで持続可能な社会へと社会構造を改革していくことが期待されています。
本日発表された活動内容は、こうした世界的な流れに沿って、高校生の皆様が、日本から、各地域から、各高校から、SDGs達成を推進していくものです。誇りを持って活動を続けて下さるよう、私からもお願いいたします。そして、周囲の人々に活動内容を伝えて、巻き込んで、環境活動の輪を皆様から広げて下さることを期待いたします。
環境省では、地域の実情に合わせてSDGsの達成された持続的な発展を実現していく「地域循環共生圏」の構想を打ち出しています。地域の特性を活かし、環境・社会・経済が調和して地域が発展する、地域の未来社会の創造を、省をあげて推進しています。
私たち環境省は、日本の各地で、豊かな地球環境を持続可能なものとして未来に残そうとする皆様の取組を応援します。皆様と一緒に、持続可能な社会を創っていかなければならないと、私も決意を新たにいたしました。
最後になりますが、地方大会も含め、素晴らしい活動を行っている全国の高校生の皆様、生徒に寄り添い活動を支えていただいた先生方、そして本日御来場の方々のますますの御活躍を祈念いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

**第5回
全国ユース
環境活動発表大会
全国大会

表彰式**

上段） 贈賞名
中段） 受賞高校名
下段） 贈呈者名

環境大臣賞
広島県立世羅高等学校
環境省総合環境政策統括官
中井徳太郎

環境再生保全機構理事長賞
京都府立木津高等学校
独立行政法人環境再生保全機構
理事長　小辻智之

国連大学サステイナビリティ高等研究所所長賞
青森県立名久井農業高等学校
国連大学サステイナビリティ高等研究所
シニアプログラムコーディネーター 渡辺綱男

読売新聞社賞
北海道美幌高等学校
読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局事務局長 吉池亮

高校生選考賞
愛媛県立上浮穴高等学校
環境省総合環境政策統括官
中井徳太郎

先生選考賞
石川県立翠星高等学校
環境省総合環境政策統括官
中井徳太郎

第５回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

〈実施概要〉

日程 令和２年２月８日(土)、９日(日)
会場 ８日(土)：国連大学　レセプションホール／９日(日)：ベルサール八重洲
主催 全国ユース環境活動発表大会実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステイナビリティ高等研究所)
後援 読売新聞東京本社
協力 環境省地方環境パートナーシップオフィス（EPO)、地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
ESD活動支援センター
協賛 キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、
株式会社タニタ

受賞校のみなさん、おめでとうございます！

全国８会場で行った地方大会で選出された16高校が全国大会に出場しました。
代表高校の発表はいずれもすばらしく、審査を経て環境大臣賞をはじめすべての出場高校に賞が贈られました。
16高校の活動をご紹介します。

環境大臣賞

広島県立世羅高等学校

鯉米

錦鯉廃棄稚魚を活用した鯉米生産を目指して

広島県世羅町は高齢化が進み耕作放棄地が増加している。また、鯉養殖が盛んで毎年廃棄される稚魚はおよそ50トンにものぼる。この２つの地域課題解決に向け、すべての錦鯉の稚魚を活用し、魚堆肥を作ることを考え実験を開始。廃棄される鯉から鯉肥料を製造することができた。鯉稚魚肥料による米栽培「鯉米」も可能。アミノ酸を多く含むおいしい米作りにも貢献できる。

環境再生保全機構 理事長賞

京都府立木津高等学校

ソーシャルビジネス研究班

Kakishibuを世界基準に

木津川市は日本三大渋柿「天王柿」の産地。マイクロプラスチック問題に着目し、「柿渋」を使用する解決プランを考えた。「カキタンニン」は進化していく過程でタンニンが高分子化し耐久・耐水・消臭・防腐・防虫効果などがある天然素材。ビニール袋の替わりに新聞紙を「柿渋」でコーティングした紙袋を作成。現在、企業と柿渋紙袋の大量生産に向けて協議中。

国連大学サステイナビリティ高等研究所 所長賞

青森県立名久井農業高等学校

Treasure Hunters

乾燥地の土壌流失抑制と食料増産のための集水技術の開発

昨年まで東南アジアやアフリカなど発展途上国の肥料での富栄養化による水質汚染、飛散した農薬による水棲生物や人々の健康被害を抑制する研究を行ってきた。西アフリカなどでは降雨が少なく土壌は栄養分が乏しい。そこで今年度は、日本の伝統技法「三和土技術」を応用し、西アフリカなどの乾燥地で雨水を効率よく集め、食料や環境問題の解決に貢献する技術開発に取り組んでいる。

第５回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

全国大会 表彰

受賞校のみなさん、おめでとうございます！

読売新聞社賞

北海道美幌高等学校

環境改善班

オホーツクの自然を守れ！オホーツクで実践した自然環境改善の成果

過去５年間の駆除の成果としてウチダザリガニ影響評価調査や在来種調査をし、未だ駆除しきれないウチダザリガニを完全に駆除する。活動は、①小学生から高校生を対象とした「ウチダザリガニ駆除を中心とした環境交流会」、②網走湖での環境調査、③鶯沢川でのウチダザリガニ影響評価調査、④大規模なウチダザリガニ駆除活動、⑤ウチダザリガニの有効利用の研究を実施。

高校生選考賞

愛媛県立上浮穴高等学校

カホンプロジェクトチーム

森林の想いを音色にのせて　～カホンを通じた森林環境教育の実践とドイツに学ぶ持続可能な森林管理～

上浮穴郡久万高原町は、森林面積が90％以上を占め林業が盛ん。しかし、森林管理を促進するためには国内での木材利用を推進していく必要がある。そこで、持続可能な森林管理技術の確立、木材利用の推進と啓発、SDGs達成の取り組みが活動の３本柱。カホンを用いた森林環境教育の実践。環境に対する影響の評価として、現在までに作成したカホン1291個でレジ袋45万枚分の炭素を固定した。

先生選考賞

石川県立翠星高等学校

食品科学研究会

廃棄果皮０宣言！眠っている地域資源を活用した６次産業化計画

石川県金沢市の「金沢ゆず」は、生産量のほとんどが果汁として利用されている。搾汁後果皮は全体の50％が食品加工会社に販売され、残り50％は販売先が無く廃棄されている。生産者の６次産業化支援のため、「廃棄果皮０システム」を構築。企業や生産者と協働し、ゆずピール煮を使用した「金沢ゆず大福」を完成させ、好調に販売した。また「廃棄果皮０システム」の全国展開を進める。

プレゼンター・審査委員

審査委員長
小澤 紀美子
東京学芸大学名誉教授

〈審査委員長　講評〉

自らそれぞれの地域の課題を把握し、その解決のために地域の特性を活かしたさまざまな活動を実践・継続している皆さんの姿から、ユースの環境活動が「新たなステージ」に突入したことを実感することができました。

プレゼンター
中井 徳太郎
環境省総合環境政策統括官

審査委員
三木 清香
環境省大臣官房
総合政策課民間活動支援室長

審査委員
小辻 智之
独立行政法人環境再生保全機構
理事長

審査委員
渡辺 綱男
国連大学サステイナビリティ高等研究所
シニアプログラムコーディネーター

審査委員
吉池 亮
読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局事務局長

審査委員
猪野 正浩
株式会社タニタブランディング推進部部長
広報・新事業開拓統括

優秀賞　10高校

優秀賞 北海道標茶高等学校

地域環境系列 環境ゼミ キノコ班

標茶高校敷地内に自生するキノコの調査と考察

高校敷地内の軍馬山山道及び軍馬川源流山道に自生するキノコを発見･鑑定し、今年度は合計135種類のキノコを同定した。自生するキノコの魅力を発信するためにオリジナルRPGを制作し、誰でもプレイできるようネット上にアップロードした。これを用いて活動を発信する。

優秀賞 仙台高等専門学校 名取キャンパス

仙台高専 香りの抽出グループ

松がレモンの香り？クロマツで無添加除菌スプレーの開発！

クロマツから採れる精油には脱臭・抗菌作用を示す成分であるピネンやリモネンが含まれる。私たちは、精油の抽出法の「水蒸気蒸留法」を用いてクロマツの成分を抽出し、人にとって安全でクロマツの香りと抗菌性のある無添加抗菌スプレーを開発し作ることができた。

優秀賞 栃木県立栃木農業高等学校

農業環境部 環境活動班

新しい時代の道普請　～パートナーシップによる地域環境保全～

豪雨災害で発生した土砂廃棄物を再利用し、放置ため池改修や林道整備に応用している。パートナーシップの構築を図り、協働活動「栃普請」を組織化。市民参加型の「道普請ウォーク in 太平山」を実施。市民意識調査や行政機関へのヒアリングもとりまとめている。

優秀賞 学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校

バイオメタン班

バイオメタンのある暮らし

再生可能エネルギーの普及が必要と考え､校内でバイオメタン生成実験を実施。太陽熱温水器、太陽光・風力発電機を用いて施設運転に必要な熱や電気を作り、他からの供給に頼らないでバイオメタンを生成する「自立型バイオメタンシステム」の運転を行っている。

優秀賞 学校法人鈴鹿享栄学園 鈴鹿高等学校

鈴鹿中学・高等学校SOM

海岸清掃とロボットを使った環境教育活動

海洋ゴミ問題の解決・改善を目標に活動している。海岸清掃は、月１回を目標に運営はすべてメンバーが行う。環境教育活動のロボットはすべて自作で、伊勢湾に棲むアカウミガメ、スナメリ、ハセイルカなどをモチーフに造る。幼稚園やイベント、文化祭などで使っている。

優秀賞 京都府立綾部高等学校

分析化学部

地域と歩む由良川保全プロジェクト　～由良川レンジャー奮闘記part2～

由良川の化学的・生物的な水質調査、環境出前授業、清掃活動など安全安心な食料生産の確保、生物多様性保護に取り組んでいる。由良川クリーン作戦は地域に定着してきた。第７回目の今回は、市や市民、企業、関係団体を巻き込み、過去最高の230名の方が参加した。

優秀賞 山陽女子中学校・高等学校

地歴部

瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦～SDGsの視点からのアプローチ～

瀬戸内海の海底ごみや島嶼部の漂着ごみの原因は、沿岸部だけではなく、流入する河川の上流域や対岸部を含む生活圏から排出される生活ごみ。SDGsの視点を取り入れて目標をより明確化して、啓発活動、商品を販売する経済の面からのアプローチなどの重要性を発信。

優秀賞 香川県立多度津高等学校

建築科＆写真部

地域と繋がる環境活動

地域社会との交流や近年ではボランティアや環境活動を積極的に行っている。環境イベントへの参加が増え大きな成果となっている。活動は、①かまぼこ板ものづくり、②グリーンカーテンが交流の場、③古民家再生による地域の活性化、④地元の美味い食材が缶詰に。

優秀賞 長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

身近な環境問題解決法の検討　～放置竹林対策に向けた菌床栽培法～

キノコ菌床栽培の一般的な「米ぬか」などの栄養体を「竹チップ」に換えると、かびなどの雑菌が発生しにくく、生育スピードや品質にも問題が無いことが分かった。竹チップを用いた菌床栽培法は、農家での実証実験も終え、放置竹林対策となることが期待されている。

優秀賞 沖縄県立沖縄水産高等学校

シーメンズクラブ

「豊かな海を守る」プロジェクト～海ゴミとマイクロプラスチック問題の解決に向けて一歩踏み出そう～

沖縄本島の天然ビーチ５カ所で漂流物調査。久高島、伊江島での漂着物とマイクロプラスチック調査。沖縄県実習船「海邦丸五世」で太平洋上の漂流ゴミ目視観測とマイクロプラスチック量調査、マグロ、ミズウオ、カジキの胃袋の内容物調査等を実施している。

全国ユース環境フォーラム（全国ユース環境活動発表大会　第１日目）

フォーラムのテーマは、『SDGs』、そして『地域循環共生圏＝ローカルSDGs』

　全国ユース環境活動発表大会全国大会の第１日目、国連大学のレセプションホールで全国ユース環境フォーラムが開催されました。今年のテーマは、「SDGs」、そして『地域循環共生圏＝ローカルSDGs』。
主催者より概要説明の後、全国から参加した高校生が他校の生徒とともにグループワークを実施し交流の機会が作られました。参加した高校生は、日頃よりSDGsに関する取り組みを実践している人も多く、「未来との約束」について活発な意見交換が繰り広げられました。

フォーラムの様子

全国ユース環境フォーラム　コンテンツ

プログラム① 環境省研修

「環境活動の推進について」　環境省 大臣官房総合政策課 民間活動支援室長 三木 清香 さん

〈研修内容〉１. 地球規模の環境課題　２. 持続可能な発展に向けた取組：環境教育、地域循環共生圏
３. 環境活動の推進

三木 清香 さん

プログラム② 国連大学研修

「国連大学について」　国連大学サステイナビリティ高等研究所 コミュニケーションズ・アソシエイト 北川 瑞季 さん

〈研修内容〉１. 国際連合（国連）とは
２. 様々な国連機関　３. 国連大学とは？
４. 国連大学とSDGs　５. 研究プロジェクト例

北川 瑞季 さん

プログラム③ 環境再生保全機構研修

「環境映像上映と地球環境基金の取り組みについて」　独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 廣瀬 大輔 さん

〈研修内容〉１. セヴァン・スズキ「リオの伝説のスピーチ」映像上映　２. 地球環境基金の取り組み
３. 地球環境基金助成事業の例

廣瀬 大輔 さん

プログラム④ 交流ワークショップ

「2030年、あなたはどこで何をする」　一般社団法人環境パートナーシップ会議 パートナーシッププロデュース部リーダー 江口 健介 さん

〈研修内容〉１. 2030アジェンダの構造　２. 実際の社会で今おきていること
３. 日本の地域社会でSDGsを実現するために　４. 地域循環共生圏とは？

〈交流ワークショップ内容〉　SDGsは未来との約束
2030年（2050年）、私は　○○で　□□してみたい
例）地元の町で…　例）学校の先生になりたい
東京で…　研究者になりたい
海外で…　自然に触れながら生活がしたい
海の近くで…　遊んで暮らしたい

司会
浦林 貴子 さん

ファシリテータ
江口 健介 さん

高校生が主役！　全国ユース環境フォーラム フォトアルバム

たくさんの学びと交流がありました。

〈 読売新聞記者　寄稿 〉

第5回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

大会後援：読売新聞東京本社

環境活動の質 新ステージへ

読売新聞教育ネットワーク事務局記者　小川 祐二朗

　環境大臣賞を受賞した広島県立世羅高校の「鯉米」プロジェクトが始まったのは、2017年。農業経営科を今春卒業する荒木舞桜里（まおり）さん、友宗龍希（ともむねりゅうき）君らが１年生の時に聞いた宮本紀子教諭の「農業と環境」という授業が出発点だった。
　クラスメートの実家が営むニシキゴイ養殖場で、「１年間で生まれる稚魚400万匹のうち、発色の悪い396万匹は焼却処分される」と聞いて、たじろいだ。「なんとかならないか」。最初に実行したのは「アイガモ農法」ならぬ「コイ農法」。水田に放流したコイに雑草や害虫を食べてもらうアイデアだったが、「河川に流出したら生態系が狂う」と県から中止勧告を言い渡されてしまう。
　それではと、魚が材料のしょうゆ「魚醤」をつくるが、魚の腐った臭いがひどい。校内で文字通りの鼻つまみ者になった末、学校での製造・販売は衛生上、不可とわかる。その悪戦苦闘ぶりには同情してしまうが、２人はあくまで陽気に語る。聞けば「実験が楽しくてしようがなかったから」と言う。
　こうした活動が認められ、２人は大学のAO入試に今春合格し、大学生になる。「卒業後は地元で就職する」と考えていた生徒たちが「もっと勉強したくなった」と言う。宮本教諭は「学校の授業だけでは生徒たちは成長しない。困った場面でいろいろ突っ込まれないと」と話し、「その点、プロジェクト学習は育てる有効な手段」と続けた。

広島県立世羅高等学校
錦鯉廃棄稚魚を活用した鯉米生産を目指して

京都府立木津高等学校
Kakishibuを世界基準に

青森県立名久井農業高等学校
乾燥地の土壌流失抑制と食料増産のための集水技術の開発

北海道美幌高等学校
オホーツクの自然を守れ！オホーツクで実践した自然環境改善の成果

伝統技法を現代の視点で

　今年は、世羅高校のような高いレベルの発表が複数あった。審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大名誉教授は「ステージが変わったのでは？」と評した。他の審査員も同感だったようだ。
　環境再生保全機構理事長賞の京都府立木津高校は、レジ袋が海洋環境悪化の原因になっていることから、地元特産の渋柿の汁（柿渋）に耐久・耐水・消臭効果があることに着目。柿渋を紙袋に塗ってレジ袋の代わりに使おうと考えた。
　国連大学サステイナビリティ高等研究所長賞の青森県立名久井農業高校はアフリカの乾燥地での土壌流出防止と食糧増産のため、耕作地での集水・施肥手法を開発した。ヒントを得たのは日本家屋の玄関などに使われてきた伝統技法「三和土（たたき）」。両校とも古くからある技法を現代の視点からアレンジした。

新聞を課題発見の道具に！

　特定外来生物である北米産ウチダザリガニの駆除と利用の方法をさぐり、読売新聞社賞を射止めた北海道美幌高校など、地元の課題をコツコツと調査し、解決に導こうとする研究も複数あった。この大会の伝統だが、実証研究を積み重ねて「データ」で語る手法は大学生レベルといえる。行政や企業を巻き込んで活動の質を高め、幅を広げていく手法も大人顔負けだ。
　インターネットやSNSを使った活動の発信方法にいたっては、もはや大人の上をゆく。研究したキノコを題材にロールプレイングゲームまで作ってしまう北海道標茶高校のような研究もある。国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、高校生たちはまさに「新しいステージ」に来た。
　貧困から気候変動、生物多様性保全まで、SDGsが課題解決をめざす17の目標についての現状分析を網羅的に掲載しているのが新聞だ。課題発見の道具として、高校生たちも新聞に目を通してみてほしい。

第５回 全国ユース環境活動発表大会 地方大会（北海道地方大会、東北地方大会、関東地方大会、中部地方大会）

2019年11月～12月、全国８か所で「第５回 全国ユース環境活動発表大会 地方大会」が開催 されました。日頃から熱心に環境活動を実践している高校生からたくさんの応募をいただき、書類選考を経て全国合計92高校が地方大会に出場しました。地方大会では、環境活動の 発表、交流ワークショップ、表彰式が行われ、多くの高校生が交流をいたしました。

北海道地方大会　記念写真

東北地方大会　記念写真

関東地方大会　記念写真

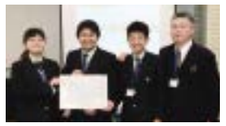
中部地方大会　記念写真

北海道地方大会

日程）令和元年11月10日(日)
会場）TKP札幌駅カンファレンスセンター

地方大会最優秀賞	北海道美幌高等学校	環境改善班
高校生が選ぶ特別賞	北海道標茶高等学校	地域環境系列 環境ゼミ キノコ班
先生が選ぶ特別賞	北海道標茶高等学校	地域環境系列 環境ゼミ ガイド班
協賛企業特別賞	北海道帯広農業高等学校	十勝川中流部川づくり班
協賛企業特別賞	市立札幌開成中等教育学校	じー's
優秀賞	北海道羽幌高等学校	１学年
優秀賞	北海道北見北斗高等学校	サイエンスクラブ GAP
優秀賞	北海道標津高等学校	自然科学部&自然環境系科目＆生徒会
優秀賞	北海道士幌高等学校	環境専攻班・士幌環境講座
優秀賞	札幌日本大学高等学校	科学部 地球規模課題グループ
優秀賞	北海道七飯高等学校	科学部
優秀賞	北海道函館水産高等学校	なかの研究所

SDGs交流ワークショップ


北海道美幌高等学校

北海道標茶高等学校 キノコ班

北海道標茶高等学校　ガイド班

北海道帯広農業高等学校

市立札幌開成中等教育学校

東北地方大会

日程）令和元年11月17日(日)
会場）TKPガーデンシティ仙台

地方大会最優秀賞	青森県立名久井農業高等学校	Treasure Hunters
高校生が選ぶ特別賞	仙台高等専門学校 名取キャンパス	仙台高専 香りの抽出グループ
先生が選ぶ特別賞	青森県立むつ工業高等学校	R1 課題研究 地中熱融雪研究班
協賛企業特別賞	宮城県農業高等学校	科学部復興プロジェクトチーム
協賛企業特別賞	岩手県立遠野緑峰高等学校	生産技術科草花研究班
優秀賞	秋田県立秋田北鷹高等学校	科学部 ESD班
優秀賞	宮城県志津川高等学校	自然科学部
優秀賞	宮城県多賀城高等学校	SS科学部
優秀賞	宮城学院中学校高等学校	特活自然科学班
優秀賞	仙台白百合学園高等学校	30LS04
優秀賞	山形県立村山産業高等学校	農業部バイオテクノロジー班
優秀賞	創学館高等学校	モノづくり倶楽部

SDGs交流ワークショップ

青森県立名久井農業高等学校

仙台高等専門学校 名取キャンパス

青森県立むつ工業高等学校

宮城県農業高等学校

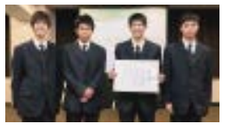
岩手県立遠野緑峰高等学校

関東地方大会

日程）令和元年12月15日(日)
会場）TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター

地方大会最優秀賞	栃木県立栃木農業高等学校	農業環境部 環境活動班
高校生が選ぶ特別賞	学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校	バイオメタン班
先生が選ぶ特別賞	群馬県立利根実業高等学校	生物資源研究部
協賛企業特別賞	オイスカ高等学校	浜と松プロジェクトチーム
協賛企業特別賞	東京都立大島高等学校	カメリアユナイテッド
優秀賞	茨城県立竹園高等学校	スーパーサイエンス部（SSC）生物班
優秀賞	栃木県立真岡北陵高等学校	ペンタゴンプロジェクト
優秀賞	千葉県立松戸南高等学校	Team Quad－E
優秀賞	千葉県立鎌ヶ谷西高等学校	Team KAMAGAYA
優秀賞	千葉県立津田沼高等学校	鳥類担当
優秀賞	東京都立国分寺高等学校	国分寺高校生物部カラスバト班
優秀賞	慶應義塾湘南藤沢高等部	環境プロジェクト

SDGs交流ワークショップ


栃木県立栃木農業高等学校

星陵高等学校

群馬県立利根実業高等学校

オイスカ高等学校

東京都立大島高等学校

中部地方大会

日程）令和元年12月８日(日)
会場）TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線口

地方大会最優秀賞	石川県立翠星高等学校	食品科学研究会
高校生が選ぶ特別賞	学校法人鈴鹿享栄学園鈴鹿高等学校	鈴鹿中学・高等学校SOM
先生が選ぶ特別賞	岐阜県立恵那農業高等学校	花咲かみつばち倶楽部
協賛企業特別賞	名古屋市立名古屋商業高等学校	商品開発研究班
協賛企業特別賞	三重県立四日市西高等学校	Yon-nishi SHIZENKEN
優秀賞	富山県立滑川高等学校	海洋クラブ
優秀賞	富山国際大学付属高等学校	北陸富山Blue Earth Project（ユネスコ部）
優秀賞	石川県立津幡高等学校	朱鷺サポート隊
優秀賞	福井県立福井農林高等学校	福井農林高校SDGs推進チーム
優秀賞	愛知県立木曽川高等学校	総合実務部
優秀賞	愛知県立佐屋高等学校	カメプロジェクト
優秀賞	岐阜県立加茂高等学校	雨降り帰りたい

SDGs交流ワークショップ

石川県立翠星高等学校

学校法人鈴鹿享栄学園鈴鹿高等学校

岐阜県立恵那農業高等学校

名古屋市立名古屋商業高等学校

三重県立四日市西高等学校

第5回 全国ユース環境活動発表大会 地方大会（近畿地方大会、中国地方大会、四国地方大会、九州・沖縄地方大会）

全地方大会 共通

主催） 全国ユース環境活動発表大会実行委員会 （環境省・独立行政法人環境 再生保全機構・国連大学サステイナビリティ高等研究所）
後援） 読売新聞東京本社　　協力） 環境省地方環境パートナーシップオフィス（EPO）、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）、ESD活動支援センター
協賛） キリンホールディングス株式会社・協栄産業株式会社・SGホールディングス株式会社・株式会社タニタ

近畿地方大会　記念写真

中国地方大会　記念写真

四国地方大会　記念写真

九州・沖縄地方大会　記念写真

近畿地方大会

日程） 令和元年12月15日（日）
会場） TKPガーデンシティ東梅田

地方大会最優秀賞	京都府立木津高等学校	ソーシャルビジネス研究班
高校生が選ぶ特別賞	京都府立綾部高等学校	分析化学部
先生が選ぶ特別賞	京都府立宮津高等学校	フィールド探究部巨樹係
協賛企業特別賞	大阪府立農芸高等学校	酪農専攻 FARM GIRL
協賛企業特別賞	大阪府立堺工科高等学校	定時制の課程 エコ・プロジェクト
優秀賞	京都府立宮津高等学校	フィールド探究部里山係
優秀賞	大阪府立園芸高等学校	ビオトープ部 蝶ハッピーチーム
優秀賞	大阪府立刀根山高等学校	生物エコ部
優秀賞	清風高等学校	アオコ班
優秀賞	兵庫県立豊岡総合高等学校	インターアクトクラブ
優秀賞	近畿大学附属豊岡高等学校	鸛部～ToLive～
優秀賞	兵庫県立篠山東雲高等学校	自然科学部 外来生物堆肥化プロジェクト
優秀賞	須磨学園高等学校・灘高等学校・雲雀丘学園高等学校	オタマボヤ合同研究チーム

SDGs交流ワークショップ

京都府立木津高等学校

京都府立綾部高等学校

京都府立宮津高等学校

大阪府立農芸高等学校

大阪府立堺工科高等学校

中国地方大会

日程） 令和元年11月17日（日）
会場） TKPガーデンシティ広島駅前大橋

地方大会最優秀賞	山陽女子中学校・高等学校	地歴部
高校生が選ぶ特別賞	広島県立世羅高等学校	鯉米
先生が選ぶ特別賞	岡山県立津山工業高等学校	化学部
協賛企業特別賞	岡山学芸館高等学校	医進サイエンスコース・ひがたーばんす
協賛企業特別賞	広島県立油木高等学校	地域農業実践グループ
優秀賞	岡山県立邑久高等学校	自然環境グループ 2019
優秀賞	岡山県立玉野高等学校	バイオマス発電研究班
優秀賞	広島県立祇園北高等学校	科学研究部 MP班
優秀賞	広島県立広島国泰寺高等学校	科学部生物班 ＭＰチーム
優秀賞	広島県立加計高等学校	森林を考える講座
優秀賞	出雲西高等学校	インターアクトクラブ
優秀賞	島根県立江津工業高等学校	エクステリアコーディネート班

SDGs交流ワークショップ

山陽女子中学校・高等学校

広島県立世羅高等学校

岡山県立津山工業高等学校

岡山学芸館高等学校

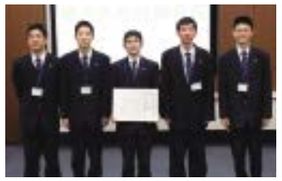
広島県立油木高等学校

四国地方大会

日程） 令和元年12月22日（日）
会場） サンポートホール高松

地方大会最優秀賞	香川県立多度津高等学校	建築科＆写真部
高校生が選ぶ特別賞	愛媛県立上浮穴高等学校	カホンプロジェクトチーム
先生が選ぶ特別賞	徳島県立阿南光高校＆小松島西高校勝浦校＆小松島高校＆徳島北高校＆新野高校	緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム
協賛企業特別賞	徳島文理高等学校	食品ロス研究班
優秀賞	徳島県立徳島商業高等学校	校内模擬会社Comcom
優秀賞	済美高等学校	livth
優秀賞	高知県立伊野商業高等学校	和紙研究会

SDGs交流ワークショップ


香川県立多度津高等学校

愛媛県立上浮穴高等学校

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

徳島文理高等学校

九州・沖縄地方大会

日程） 令和元年12月８日（日）
会場） TKPガーデンシティPREMIUM博多駅前

地方大会最優秀賞	長崎県立諫早農業高等学校	食品科学部
高校生が選ぶ特別賞	沖縄県立沖縄水産高等学校	シーメンズクラブ
先生が選ぶ特別賞	福岡県立伝習館高等学校	自然科学部
協賛企業特別賞	博多女子高等学校	Hakata Girls'Shop
協賛企業特別賞	大分県立玖珠美山高等学校	チームSATOYAMA
優秀賞	福岡県立糸島農業高等学校	根っこ部
優秀賞	大分県立大分東高等学校	農業部
優秀賞	佐賀県立伊万里農林高等学校	ねぎ麺プロジェクトチーム
優秀賞	佐賀県立鳥栖商業高等学校	流通経済科
優秀賞	長崎県立対馬高等学校	ユネスコスクール部
優秀賞	長崎県立五島高等学校	五島高校五島環境部
優秀賞	宮崎県立都城工業高等学校	化学技術部

SDGs交流ワークショップ

長崎県立諫早農業高等学校

沖縄県立沖縄水産高等学校

福岡県立伝習館高等学校

博多女子高等学校

大分県立玖珠美山高等学校

第5回 全国ユース環境活動発表大会応募高校一覧

たくさんのご応募をいただき誠にありがとうございました。

2019年度 全国の高校生の環境活動（全162団体）

全国の高校生は、今年もとても熱心に素晴らしい環境活動に取り組んでいます。
全国162団体の活動事例をご紹介します。今後の参考に、また情報交換や交流にもぜひお役立てください。

掲載の地区別（都道府県）は、環境省地方環境事務所の所管する都道府県別で区分しています。

◇ 2019年度の特長

今年も、CO_2排出量削減や生物多様性の保全をはじめ、循環型社会の形成、地域での事業開発など、たくさんの研究、活動の情報をいただきました。中でも、海洋プラスチック、廃プラスチック、食品ロスなどの活動が一気に増えています。SDGsへの取り組みは、全国で多くの高校が実践しています。

〈表の見方〉 上段：高校名 中段：団体名 下段：活動名

北海道 15団体

北海道羽幌高等学校
1学年
羽幌シーバードフレンドリープロジェクト

北海道旭川農業高等学校
森林環境班
旭農版コンテナ苗の生産
～ササを利用し北海道に新たな育苗技術を～

北海道北見北斗高等学校
サイエンスクラブ　GAP
常呂川は僕らの体を流れている
―水でつなげるGAPの活動―

北海道美幌高等学校
環境改善班
オホーツクの自然を守れ！
オホーツクで実践した自然環境改善の成果

北海道標津高等学校
自然科学部&自然環境系科目＆生徒会
地域との繋がりで紡ぐ環境保全活動

北海道標茶高等学校①
地域環境系列　環境ゼミガイド班
地域と連携した釧路湿原保全のためのガイド活動

北海道標茶高等学校②
地域環境系列　環境ゼミキノコ班
標茶高校敷地内に自生するキノコの調査と考察

北海道士幌高等学校
環境専攻班・士幌環境講座
士幌の原植生　カシワ林を後世に伝えるために

北海道帯広農業高等学校
十勝川中流部川づくり班
トカプウシイの命の力
～撹乱から再生、新たな川づくりへ～

市立札幌開成中等教育学校
じー's
環境×SDGs

札幌日本大学高等学校
科学部　地球規模課題グループ
オガクズの再活用

北海道登別明日中等教育学校①
意思の硬い石を！！
おいでよふぉれすと鉱山　～石を添えて～

北海道登別明日中等教育学校②
りょーたろーとゆーせーの嵐を呼ぶみらくるクッキング
外来魚を減らすためには

北海道七飯高等学校
七飯高校科学部
渡島大沼の生物多様性を保全する取り組み

北海道函館水産高等学校
なかの研究所
渡島大沼流入河川における水質調査および魚類調査

東北 22団体

青森県立むつ工業高等学校
R１課題研究 地中熱融雪研究班
地中熱利用による融雪研究

青森県立柏木農業高等学校
生物活用班
For the future of Shirakami
～ブナの森を守り、新しい森を作る～

青森県立名久井農業高等学校
Treasure Hunters
乾燥地の土壌流失抑制と食料増産のための集水技術の開発

岩手県立遠野緑峰高等学校
生産技術科草花研究班
摘花された花たちの再利用
～天然色素から生まれるホップ和紙の新たなる挑戦

秋田県立秋田北鷹高等学校
科学部　ESD班
開発途上国における地球温暖化の知識・意識に対する環境教育プログラムの実践活動

秋田県立羽後高等学校
生徒会執行部２年生
羽後高校の環境活動

宮城県志津川高等学校
自然科学部
松原干潟の生物調査

宮城県富谷高等学校
水素プロジェクトチーム
水素プロジェクト

宮城県利府高等学校
自然科学部・ROGER
赤外温度計を用いた利府町内の地温計測と植生土壌の関係調査

宮城県多賀城高等学校
SS科学部
宮城県多賀城高校Bursa.バスターズ
～多賀城高校の松枯れの原因を探るPart3～

仙台白百合学園高等学校①
30LS04
家庭の意識の改善で食品ロスは減らせるか

仙台白百合学園高等学校②
30LS05班
再エネ化による経済効果

宮城学院中学校高等学校
特活自然科学班
食用廃油の資源化

宮城県農業高等学校
科学部復興プロジェクトチーム
循環型育成法から生まれた桜塩で目指せ！桜の国
～私達の復興への挑戦～

仙台高等専門学校 名取キャンパス
仙台高専 香りの抽出グループ
松がレモンの香り？
クロマツで無添加除菌スプレーの開発！

山形県立村山産業高等学校
農業部バイオテクノロジー班
エンドファイトで施肥削減！
地球に優しい農業を実現する

創学館高等学校
モノづくり倶楽部
SDGsで拡がる協働の和
～人と人のつながり～

山形県立山形西高等学校
放課後実験倶楽部
メダカの学校Ⅱ
～小学生とともに学ぶ地域の生き物～

米沢興譲館高等学校
環境DNA班
環境DNAを用いた希少生物ゲンゴロウ属の調査方法の確立

福島県立葵高等学校①
科学部　メダカ班
会津メダカからみる遺伝的攪乱の研究
～ご当地メダカを守れ～

福島県立葵高等学校②
科学部　水質班
定量化できる水質測定法の開発
～信頼性・再現性のある濃度測定を目指して～

福島県立平工業高等学校
生徒会
「もったいない！」から、はじまる環境活動

関東 26団体

茨城県立竹園高等学校
スーパーサイエンス部（SSC）生物班
低投入多収型稲作法SRIの普及に向けた検証
～里山の生物多様性の保全およびSDGsの達成を目指して～

栃木県立那須拓陽高等学校
大山農場プロジェクト
「オシャラクブナの里」創造計画

栃木県立真岡北陵高等学校
ペンタゴンプロジェクト
遊休農地を活用して～綿花栽培を通した地域貢献～

栃木県立栃木農業高等学校
農業環境部　環境活動班
新しい時代の道普請
～パートナーシップによる地域環境保全～

群馬県立利根実業高等学校
生物資源研究部
ニホンジカの赤城山北西麓における生態・行動研究と玉原湿原におけるミズバショウ群生地の保護活動

群馬県立伊勢崎興陽高等学校
バイオテクノロジー研究部
放置竹林の可能性を探る

千葉県立松戸南高等学校
Team Quad-E (Ecological Environmental Engineering Education)
地域の生態系保全のための技術の研究
～みんなで楽しくビオトープづくり～

千葉県立鎌ヶ谷西高等学校
Team KAMAGAYA
繋げよう　Team KAMAGAYA

千葉県立津田沼高等学校
理科部生物班 鳥類担当
アオサは善か？悪か？

埼玉県立熊谷高等学校
生物部
過去３年間の熊谷市成田用水における水生動物の調査

神田女学園高等学校①
海洋プラスチックTシャツ
海洋プラスチックについて

神田女学園高等学校②
海を大切に
海の底には～野生生物に迫る危険～

神田女学園高等学校③
Chalk'girls
すぐに短くなってしまうチョークまだ役目は、終わってない！！

正則学園高等学校
SG-SDGs研究チーム
SDGs からの学び高校生の企業連携プログラム
（琵琶湖を通じてSDGsを学ぼう）

東京都立国際高等学校
FOR
What's more can we do
～世界の労働者達を私たちの手で守る～

國學院大學久我山高等学校
久我山環境保全プロジェクト
ゴミから見る環境保全

東京都立国分寺高等学校
生物部カラスバト班
調査研究
「天然記念物カラスバトはどのような環境を好むか」

東京都立大島海洋国際高等学校
波浮姫ゴミ拾い隊
大島における海洋ゴミの漂着状況について

東京都立大島高等学校
カメリアユナイテッド
島の地域資源「ツバキ」を守れ
～特定外来生物タイワンリスを撃退せよ～

洗足学園高等学校
横浜川崎Blue Earth Project
Take Action Make Change

光明学園相模原高等学校
理科研究部
カワラノギクの保全と地域の生物多様性

慶應義塾湘南藤沢高等部
環境プロジェクト
人との繋がりが広げる環境活動の輪

学校法人静岡理工科大学　星陵高等学校
バイオメタン班
バイオメタンのある暮らし

静岡県立清水西高等学校
自然科学部
熱中症予防のための実測データ活用の提案

静岡県立浜松城北工業高等学校
環境部
～「地球にやさしいエンジニア」を目指して～

オイスカ高等学校
浜と松プロジェクトチーム
「浜と松プロジェクト」

中部 20団体

富山県立滑川高等学校
海洋クラブ
滑川高校の環境への取り組み
「～貝から海の恵みを学ぼう～」

富山県立中央農業高等学校
地鶏班
比内地鶏活用プロジェクト
～地域資源の活用と地域経済の活性化をめざして～

富山国際大学付属高等学校
北陸富山Blue Earth Project（ユネスコ部）
「富山発！地球共生マインド ～地域交流・国際交流でのSDGs活動～」

石川県立津幡高等学校①
園芸部
養蚕復活を通じた里地里山の再生・環境保全活動

石川県立津幡高等学校②
朱鷺サポート隊
トキを通じた生物多様性の普及・啓発活動

石川県立翠星高等学校
食品科学研究会
廃棄果皮０宣言！
眠っている地域資源を活用した６次産業化計画

福井県立福井農林高等学校
SDGs推進チーム
福井農林高校SDGs宣言
～持続可能な大地を守るために～

岐阜県立恵那農業高等学校
花咲かみつばち倶楽部
花咲かみつばちプロジェクト
～みつばちとともに里山の調査・保全・活用～

岐阜県立加茂高等学校①
雨降り帰りたい
アルゼンチンアリから日本のアリを守れ！

岐阜県立加茂高等学校②
アワーズ
私たちはどれだけのマイクロプラスチック食べている？

岐阜県立大垣西高等学校
生物多様性調査班
岐阜県西濃地区における在来タンポポに関する調査

名古屋市立名古屋商業高等学校
商品開発研究班
葦から“Zoo”Inspire

クラーク記念国際高等学校　名古屋キャンパス①
DWP　Diversity World Project
生物多様性のための企画立案

第5回 全国ユース環境活動発表大会応募高校一覧

たくさんのご応募をいただき誠にありがとうございました。

クラーク記念国際高等学校　名古屋キャンパス②
リス研６班
猫の交通事故を防ぐ

愛知県立木曽川高等学校
総合実務部
絶滅の危機に瀕した木曽川のイタセンパラ！
私たちにできる活動は何か？

愛知県立佐屋高等学校①
文鳥プロジェクトチーム
絶滅を防ぎ命をつなぐプロジェクト！　白文鳥よ再び！

愛知県立佐屋高等学校②
カメプロジェクト
「タートルチップの可能性」
～生物多様性・農耕地の保全と外来種の活用～

三重県立四日市西高等学校
Yon-nishi SHIZENKEN
鈴鹿山麓におけるフクロウの保護活動

三重県立四日市農芸高等学校
自然環境コース
より良い自然観察園を目指して
～自然を身近に感じる公園づくり～

学校法人鈴鹿享栄学園鈴鹿高等学校
鈴鹿中学・高等学校SOM
海岸清掃とロボットを使った環境教育活動

近畿
30団体

京都府立宮津高等学校①
フィールド探究部巨樹係
巨樹は語る

京都府立宮津高等学校②
フィールド探究部里山係
上世屋で学び伝える

京都府立久美浜高等学校
農業クラブ
京丹後市久美浜町における海岸マツ林の再生を目指して

京都府立綾部高等学校
分析化学部
地域と歩む由良川保全プロジェクト
～由良川レンジャー奮闘記part2～

京都府立木津高等学校①
ソーシャルビジネス研究班
Kakishibuを世界基準に

京都府立木津高等学校②
園芸部　田んぼ隊
お米を化学肥料の力を借りず作りつづけるとどうなるのか

大阪府立長尾高等学校
理科研究部
船橋川の水質定点モニタリング

関西創価高等学校
理科環境部
学校の生態系を守れ！外来生物を釣って肥料に

早稲田摂陵高等学校
Crazy Clever Science
"ペットボトル・トラス" × 未来のエネルギー「水素」× 机の上の竜巻

大阪府立園芸高等学校
ビオトープ部 蝶ハッピーチーム
企業と連携したバタフライガーデンづくり

大阪府立刀根山高等学校
生物エコ部
地域の生物多様性を守り楽しむ！

学校法人大阪学園大阪高等学校
科学探究部
環境DNAを利用した淀川水系河川における生物相調査と生物保全の実践活動

清風高等学校
アオコ班
水環境の新たな改善方法
～アオコの抑制とヘドロの再利用方法～

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
エコ・プロジェクト
美しい地球を次世代に
～捨てればゴミ、活かせば資源～

大阪府立農芸高等学校①
酪農専攻　FARM GIRL
持続可能な社会の実現に向けて
－食と農で解決する環境問題－

大阪府立農芸高等学校②
総合環境部
住み続けられるまちづくりのために

大阪府立泉鳥取高等学校
地球をきれいにし隊
分別の重要さ　ゴミ箱の大切さ

兵庫県立豊岡総合高等学校
インターアクトクラブ
インターアクト米　稲作

近畿大学附属豊岡高等学校
鶴部～ToLive～
人とコウノトリを繋ぐ架け橋に
～鶴部２年目の軌跡～

兵庫県立香住高等学校
海洋科学科　アクアコース　餌の研究チーム
海と川のアユの行方を調査する
～海で地引網、川で卵黄計測、耳石で検証～

兵庫県立篠山東雲高等学校
自然科学部　外来生物堆肥化プロジェクト
共存のための堆肥
～カエルたちの命と向き合って～

兵庫県立尼崎小田高等学校
サイエンスリサーチ科自然科学研究化学班
マイクロプラスチックを探る
～高校生サミットへの発展～

神戸山手女子高等学校
（仮）カメら部
日本固有種であるニホンイシガメの保全と研究

須磨学園高等学校＆灘高等学校＆雲雀丘学園高等学校
オタマボヤ合同研究チーム
オタマボヤでバイオマス量を増加させる

兵庫県立神戸商業高等学校
理科研究部
海洋プラスチックごみゼロに向けた啓発活動

兵庫県立北条高等学校
人間創造コースあびき班　自然科学部
あびき湿原の環境保全活動等を中心とした環境活動

兵庫県立加古川東高等学校①
自然科学部地学班湿地チーム
ため池保全のための地域調査

兵庫県立加古川東高等学校②
課題研究ゴミ班
近郊農村におけるポイ捨ての地域性を追究する

和歌山県立田辺高等学校①
生物部　駆除班
外来種アフリカツメガエルの駆除活動

和歌山県立田辺高等学校②
生物部　水質班
アフリカツメガエルがため池のプランクトンに与える影響

中国
20団体

岡山県立津山工業高等学校
化学部
竹の有効利用
～工業高校の特色を生かした地域貢献～

岡山県立邑久高等学校
自然環境グループ 2019
タナゴ類保全プロジェクト
～二枚貝の長期飼育に挑戦～

岡山県立瀬戸高等学校
Sらぼ　防災チーム
ODDP
～岡山防災計画～

岡山学芸館高等学校
医進サイエンスコース・ひがたーばんす
里海の聖地におけるベントス層変化から環境保全について考える

山陽女子中学校・高等学校
地歴部
瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦～SDGsの視点からのアプローチ～

岡山商科大学附属高等学校
工業技術同好会
地球温暖化による海洋と工業技術

岡山県立倉敷天城高等学校
熱音響エンジン研究チーム
熱音響エンジンに関する研究とモデルによる鳴釜の再現

岡山県立玉野高等学校①
バイオマス発電研究班
岡山県産果物を用いたバイオマス発電の方法に関する研究

岡山県立玉野高等学校②
２年１組理系選択者
文化祭でウミホタルの展示をしよう

青翔開智高等学校
鳥取の農業課題に立ち向かう班
農業サポートアプリの提供で鳥取の「生物多様性」を保全する！？

広島県立油木高等学校
地域農業実践グループ
耕作放棄地での竹チップの利用

広島県立世羅高等学校
鯉米
錦鯉廃棄稚魚を活用した鯉米生産を目指して

広島県立庄原実業高等学校
農村環境創生研究部
田んぼアート
～耕作放棄地を解決し、農村の景観を守る～

広島県立広島国泰寺高等学校
科学部生物班 MPチーム
海環境におけるマイクロプラスチック汚染指標の作成

広島県立祇園北高等学校
科学研究部　マイクロプラスチック班
武田山・太田川のマイクロプラスチック検出

広島県立加計高等学校
森林を考える講座
持続可能な開発としてのカーボンマイナス法の構築と普及

出雲西高等学校
インターアクトクラブ
出雲発！海岸清掃及びマイクロプラスチック問題を考える

島根県立江津工業高等学校
エクステリアコーディネート班
瓦で街を変える

島根県立矢上高等学校①
プロジェクト学習地域未來化グループ
魅力的な地域にするために（ふるさと納税用の品物の開発）

島根県立矢上高等学校②
プロジェクト学習水環境グループ
きれいな川を取り戻す
～米ぬかが邑南町を救う～

四国
7団体

徳島県立徳島商業高等学校
校内模擬会社Comcom
私たちが守る未来～レジ袋サクゲン作戦を通して～

徳島文理高等学校
食品ロス研究班
"MOTTAINAI" を愛言葉に

徳島県立阿南光高等学校＆小松島西高等学校勝浦校＆小松島高等学校＆徳島北高等学校＆新野高等学校
緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム
資源循環型肥料の開発から東京五輪・パラリンピックへ、そして東日本震災復興へと続く環境社会イノベーションの取り組み

香川県立多度津高等学校
建築科＆写真部
地域と繋がる環境活動

済美高等学校
Livth
Eat Local
～学びの発信とエシカル消費の普及～

愛媛県立上浮穴高等学校
カホンプロジェクトチーム
森林の想いを音色にのせて　～カホンを通じた森林環境教育の実践とドイツに学ぶ持続可能な森林管理～

高知県立伊野商業高等学校
和紙研究会
土佐和紙で世界を変える！

九州・沖縄
22団体

福岡県立直方高等学校
自然科学同好会
ウチワゼニクサの駆除に向けた生態調査

博多女子高等学校
Hakata Girls'Shop
竹採物語～私たちが救う竹林問題～

福岡県立糸島農業高等学校
根っこ部
世界の畑を根こぶ病から守りたい

福岡県立武蔵台高等学校
科学部
地域環境保全への取り組み～ホタルの飼育を通して考えたこと～

福岡県立伝習館高等学校
自然科学部
柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにする研究

大分県立日田高等学校①
bamboo班
日田はいつモウソウチクに覆われるのか？

大分県立日田高等学校②
ジビエ班
ジビエで日田を明るく

大分県立玖珠美山高等学校
チームSATOYAMA
私たちの手で　地域の自然と環境を守れ！ PartⅡ
～パークを利用した循環型農業～

大分県立大分東高等学校
農業部
花育活動を通した地域交流について

佐賀県立鳥栖商業高等学校
流通経済科
鳥栖HAZEROUプロジェクト

佐賀県立伊万里農林高等学校
ねぎ麺プロジェクトチーム
規格外ねぎを利用したねぎ麺の商品開発

長崎県立諫早農業高等学校
食品科学部
身近な環境問題解決法の検討
～放置竹林対策に向けた菌床栽培法～

長崎県立口加高等学校
グローカルコース　環境班
与茂作川日記

長崎県立五島高等学校
五島高校五島環境部
なんか気候へんど～？食い止めろ！気候変動！

長崎県立対馬高等学校
ユネスコスクール部
対馬市役所等と連携した絶滅危惧種の保護活動とボランティア

熊本県立南稜高等学校
総合農業科環境コース
フウセンカズラで広がる緑の地域活性化プロジェクト

宮崎県立都城工業高等学校
化学技術部
都城地区河川水質改善プロジェクトから始めた９年間の環境保全活動

鹿児島県立鹿児島水産高等学校
SAIKO
藻場再生におけるイカ資源の復活

鹿児島県立薩南工業高校
ESD研究班
持続可能な社会のために何をするべきか

鹿児島県立屋久島高等学校①
屋久島高校環境コース
課題研究

鹿児島県立屋久島高等学校②
屋久島高校環境コース
口永良部島未来会議を通した地域活性の取り組み

沖縄県立沖縄水産高等学校
シーメンズクラブ
「豊かな海を守る」プロジェクト～海ゴミとマイクロプラスチック問題の解決に向けて一歩踏み出そう～

高校生環境研修 ～企業の環境活動を学ぶ～

協栄産業株式会社
×
茨城県立水戸第二高等学校

古澤社長（右）と一緒に記念写真

『分ければ資源、混ぜればゴミ』知っていますか？ PETボトルリサイクル！

日本有数のPETボトルリサイクル技術を誇る協栄産業グループ。今回、茨城県立水戸第二高等学校のみなさんが、協栄産業グループの最新工場を訪問し、限りある資源を次世代につなげるため、今の私たちに何ができるかを学んできました。

日本初「ボトルtoボトル」から世界初「FtoPダイレクトリサイクル」へ

協栄産業グループは、不純物を完全に取り除く新たな再生技術の開発で、これまで不可能とされていたPETボトルが再びPETボトルに蘇る日本初の「ボトルtoボトル」リサイクルを2011年に実現、翌年にはリサイクル樹脂100%のボトルが登場し※1、PETボトルを作る際に新たな石油資源を使う必要がない「究極の資源循環」を実現しました。

そして2018年、大手飲料メーカーと協働で世界初「FtoP※2ダイレクトリサイクル技術」の開発に成功。PETフレークから直接PETボトルの原型であるプリフォーム※3を成形できるため、製造・輸送など多くの工程が必要だった従来の再生法と比較すると、CO_2排出量を更に約25%削減できます。

こうした優れた環境効果から、国内からだけでなく海外からも注目を集めています。

※1 メカニカル手法では同社が世界初　※2 フレークtoプリフォーム　※3 ペットボトルの原型

「ボトルtoボトル」リサイクルの効果

今、世界では廃プラスチック問題への関心が高まっています。

中でも「海洋プラスチック問題」は、今回見学に来られた高校生の皆さんが研究発表のテーマに取り上げていた様に、島国である日本では避ける事の出来ない問題です。

日本のPETボトル回収率は、84.6%※1と非常に高い水準にありますが、その内「ボトルtoボトル」によるリサイクルは10%程度となっています。

「ボトルtoボトル」は「ボトルから再びボトルを作ることによって、ゴミを出さないものづくりが出来る」という効果もある為、これを更に推進することが、海洋プラスチック問題解決の一つの手段になるのではと、当社では考えています。

※1 PETボトルリサイクル推進協議会　年次報告書2019より

みなさんにもできること

資源の少ない日本ですが、PETボトルという貴重な資源を国内循環することで、石油資源の利用抑制と温暖化防止だけでなく、海洋ゴミの流出防止にもなります。

飲み終わった後に、キャップを外し、ラベルを取って中を軽く洗う事で、その後に生まれるリサイクル樹脂の品質が向上し、再びPETボトルに生まれ変わり、皆さんの手元に届ける事が出来ます。

地球環境を守り資源を未来に残す為に、これからもみなさんのご協力をよろしくお願い致します。

室内研修

工程説明

技術説明

工場視察

高校生感想 茨城県立水戸第二高等学校

高校生活動発表

活動発表 1

活動発表 2

平本真麻さん

回収、リサイクルされたペットボトルは、様々な工程を経て、身近な製品に生まれ変わっているということがわかりました。中でもペットボトルからペットボトルにリサイクルするボトルto ボトルは、都市油田を国内で循環させるだけでなく、CO_2 の排出量を削減することができると知りました。また、私たちが今まで使ったペットボトルは再利用されたものだったかもしれないと思い、以前よりリサイクルに対して意識するようになりました。

石井綾佳さん

資源循環の重要性と難しさを学ぶことができました。私は、ペットボトルを使えば使うほどプラスチックゴミが増え、環境に悪影響を与えるのではないかと考えていましたが、使用済みのペットボトルをリサイクルし、ペットボトルに再生することでゴミを出さずに済むということを知り驚きました。しかし、全てのペットボトルがリサイクルされているわけでなく課題も多いのだと聞き、完全な循環型社会を実現することはとても難しいことだと感じました。

軍司凛々子さん

この研修を通して、プラスチックの有用性を大きく感じました。私は今までもっとプラスチックをリサイクルするべきだと思っていましたが、日本のリサイクル率は 85%だということを知り驚きました。捨てられ燃やされることの多い紙などとは違い、もはやプラスチックはリサイクル可能な素晴らしいものです。プラスチックを有効的に使うために、一人ひとりの意識、正しい認識、ペットボトルの循環が当たり前になることが大切だと思いました。

齋藤愛理さん

ペットボトルからペットボトルへのリサイクルには高度な技術が必要なことや、様々な場面でペットボトルからリサイクルされたものが使われていることを知りました。今まで知らなかったことがもったいないくらい、すばらしい技術だと思いました。これを日本中、世界中の人々に知ってほしいです。

私の住んでいる地域では、ペットボトルの分別がまだ不十分です。私の家も例外ではありません。この経験を機に、しっかりと分別に努めようと思います。

誌上研修 ～企業の環境活動を学ぶ～

SG ホールディングス株式会社

SG ホールディングスグループは佐川急便を中核に持つ総合物流企業グループであり、デリバリー、ロジスティクスおよび不動産などの事業分野でビジネスを展開しています。約27,000台の車両を使用し、グループ全体では約41万t（2018年度）のCO_2を排出している物流事業者として、環境に与える影響の軽減に取り組むことは大きな責務であると考えています。

SG ホールディングスグループの環境への取り組み〈主な事例〉

気候変動に関する取り組み

◆ サービスセンターの設置

佐川急便は、トラックなどを使用せず台車や自転車などで集配を行う「サービスセンター（SC）」を全国に331か所設置しています。１か所当たり３～５台の車両使用を抑制でき、全センター合計では車両約1,500台分のCO_2や大気汚染物質を排出削減しています。

2019年３月より集配用電動アシスト自転車「TRIKE CARGO」を試験的に導入しており、従来の４倍となる150kg（軽トラック積載量の３分の１）まで荷物を積載することができます。

サービスセンター

資源循環に関する取り組み

◆ 環境配慮型物流施設

SGリアルティでは、電力の安定供給と環境負荷低減につながる物流施設の開発を行っており、現在、太陽光発電設備のあるグループの配送拠点・流通センターは全国に99施設あります。

パネルの設置総面積は197,273m²、2018年度の年間総発電量は27,506MWhにのぼります。

また、2018年２月に竣工したSGリアルティ和光においては、最新の自家消費型太陽光発電システムを導入しており、太陽光パネルによる自然エネルギーの創出によって、年間エネルギー消費量の実質ゼロを実現しています。

SGリアルティ和光

私たちと SDGs との関わり

SG ホールディングスグループは、総合物流企業グループとして、事業を通じた社会課題解決を図り持続的な成長を目指しています。2019 年度からの３年間に向けた中期経営計画「Second Stage 2021」では、重点施策のひとつとして「SDGs への貢献」を掲げました。また、CSR 重要課題として７課題を特定し、それぞれのテーマに沿ってグループ各社で取り組みを推進しています。

◆ 7 つの重要課題 と SDGs への貢献

安心・安全なサービスの提供	当社グループの運送事業による年間総走行距離は日本国内だけでも約4.2億キロメートル、保有車両は約27,000台に上ります。交通事故などのインパクトを最小化することは、この事業に携わる者の責務です。SDGsで掲げられている「2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる」という目標に対して取り組んでいきます。
環境に配慮した事業推進	当社グループでは、物流事業を通じて車両や物流施設での各種設備によるエネルギー使用が環境に影響を与えていることから、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「13 気候変動に具体的な対策を」に対して取り組んでいきます。
個性・多様性を尊重した組織づくり	当社グループは、多くの人が関わる物流ビジネスを主として営んでおり、一人ひとりのモチベーションの維持・向上は重要な課題です。また、男性比率の高い職場が多いことから、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「8 働きがいも経済成長も」に対して取り組みます。
総合物流ソリューションによる新しい価値の創造	物流の効率化やテクノロジーの活用により、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「11 住み続けられるまちづくりを」、「13 気候変動に具体的な対策を」に貢献します。
地域社会への貢献	国内外の様々な地域で事業を展開している企業グループとして、環境・経済・社会の観点から総合的にSDGsの実現に向けた取り組みを行っていきます。
サステナブル調達の推進	約16,000社のビジネスパートナーとの連携において、人権や安全面に配慮したお取引はもちろんのこと、環境面や地域への貢献など多方面において協力しながら、ともにSDGs全体の達成に貢献していきます。
責任ある経営基盤の構築	経営基盤となる「コーポレートガバナンス」「コンプライアンス」「リスクマネジメント」は、事業活動すべてにつながる重要課題です。持続可能な経営体制の構築への取り組みを通じてSDGs全体の達成に貢献します。

SG ホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。

SDGs研修

〈主催 ： Sante！実行委員会、独立行政法人環境再生保全機構〉

ユースSDGsフォーラム in 読売新聞東京本社

～ ヘルシー郷土料理で健康まちおこし！～

開催日）2020年1月11日　会場）読売新聞東京本社

参加校　栃木県立栃木農業高等学校　栃木県立那須拓陽高等学校　千葉県立津田沼高等学校　神田女学園高等学校　昭和女子大学附属昭和高等学校　正則学園高等学校　東京都立国際高等学校　法政大学国際高等学校　千葉大学　東京都市大学

関東地方の高校生・大学生が読売新聞で、「食」と「SDGs」について学び、交流しました！

主　催　Sante!実行委員会、独立行政法人環境再生保全機構
後　援　読売新聞東京本社、読売中高生新聞
協　力　環境省地方環境パートナーシップオフィス（EPO）、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）、ESD活動支援センター、全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
協　賛　株式会社タニタ、キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社

研修後に生徒たちで記念撮影

2020年1月11日、関東地方の8高校、2大学のSDGsに積極的に取り組んでいる活動グループが大手町の読売新聞に集まり、「ヘルシー郷土料理で健康まちおこし」をテーマに学び、語り合いました。
当日は、話題の「タニタ食堂」のお弁当を食べながら、和やかに自己紹介から始まりました。
基調講演では、読売新聞より「食とSDGs」と題して、食品ロスの現状と今後の取り組みについて学び、株式会社タニタより、「郷土料理コンテスト（Sante!）」の取り組みや健康レシピについて学びました。

タニタ食堂のお弁当を食べながらスタート

基調講演 ❶　伊藤剛寛さん　読売新聞生活部編集委員

「食と SDGs」：食品ロスは、ひとりひとりの気づきから！

読売新聞生活部編集委員の伊藤剛寛さんより、食品ロスとSDGsの深いかかわりを中心に生活者の目線でお話を頂きました。最近の身近な取り組みとして、クリスマスケーキやおせち料理、恵方巻の予約制による食品ロスの削減。
日常生活でも、食品の買いすぎ、作りすぎ、食べきる工夫など、ちょっとした思考で食品ロスに貢献できると問いかけていました。
また、食品を廃棄するための車での運搬、焼却する際のCO_2の排出の環境問題や自治体の廃棄処理費=税金の上昇など、さまざまな問題に関連していると食品ロスの重要性を説明していました。
日本の取り組みとして、2019年に「食品ロス」削減法の成立（食品ロス削減の推進を「国民運動」と位置づけ、事業者や消費者に努力を求める/毎年10月を食品ロス削減月間に指定 等）の説明や2019年のG20大阪サミット「大阪首脳宣言」（食料の損失・廃棄の削減を含め、流通を効率的に行う必要）など、今後の取り組みについての説明もあり、有意義な講演となりました。

読売新聞　伊藤剛寛さん

基調講演 ❷　荻野菜々子さん　株式会社タニタ ブランディング推進部（管理栄養士）

「ヘルシー郷土料理で健康まちおこし」：ご当地タニタごはんコンテストをとおして！

株式会社タニタ ブランディング推進部に所属し管理栄養士でもある荻野菜々子さんより、「ご当地タニタごはんコンテスト」についてお話して頂きました。このコンテストは「タニタが考える健康的な食事の目安で郷土料理を現代版にアレンジ」が題材で、毎年10月に食と健康の祭典・Sante！の中で全国大会を開催しグランプリを決定します。
キーワードでもある郷土料理は和食の代表であり、タニタ食堂の定食も和食の1汁3菜になっていること、タニタの考える健康的な食事のルールをもとにレシピを考えるため、考案者や食べる側の食育につながること、郷土料理は地元の食材を豊富に使用しているため、地産地消につながると説明がありました。
また、和食文化は日本が世界に誇る健康食であり、地域を盛り上げるために特産品、郷土料理のメニューを提供することは作り手側の働く意欲、働きがいにもつながるとお話があり、食べること、健康でいることの大切さを身近に感じる講演となりました。

タニタ　荻野菜々子さん

ワークショップ　ファシリテータ / 全国ユース環境ネットワーク事務局

「2030 年に向かってユース世代が取り組む 地域の SDGs アクション！」

今回のワークショップでは、『今の自分たちの活動』について、高校、大学と学校単位の席から移動し、他校と入り混じっての意見交換が行われました。
最初のテーマは、「実力や質の向上」です。自分たちの活動は、どんな人たちが共感してくれているか？弱点はどこか？克服はできるか？と、かなりシビアなテーマですが、大学生が引き出し役となり、積極的な議論が始まりました。
続いてのテーマは、「次の展開」。今後、何を進めたいか？今の活動を大きくするには、誰とどのように連携したらいいか？最後のテーマは、「後輩への継承」です。今の活動は持続可能か？後輩の募集、継承は？
自分たちの活動を振り返り、今後を語り合う。みなさん、同じ課題と同じ時間を共有し有意義な意見交換になりました。

ワークショップで意見交換

SDGs宣言

本日のフォーラムを終え、自分たちが今、SDGsの活動について感じていることをSDGs宣言としてまとめました。

栃木県立栃木農業高等学校

生徒会・農業クラブ・家庭クラブ・ユネスコスクール推進委員会
「蝶の羽ばたきから、大きな風を」
私たちは「バタフライエフェクト」という言葉を、活動方針にしています。以前チョウの羽ばたきから起こる小さな小さな風がたつまきをつくると聞いたことがあり、今私たちが行っていることも少しずつ広げていき、世界を救うような活動にしていけるよう努力いたします。

栃木県立那須拓陽高等学校

「オシャラクブナの里」創造計画
オシャラクブナを那須地域で復活させ環境保全型農業を広めます!!
もともと国の天然記念物だったオシャラクブナ（ミヤコタナゴの方言）をもう一度復活させたいからです。
先輩から受け継いだものを後輩にも伝えていきたいです。

千葉県立津田沼高等学校

理科部生物班
「海洋ごみや富栄養化を含む、人の生活による海洋汚染を防止し、削減する！」
谷津干潟自然観察センターの方々と連携し、環境省主催の清掃イベントへ参加するなどして、除去活動を行い、再生繊維や食品として活用できないか、研究している。また、アオサやホンビノスガイの大量発生によって、他の生物に影響が出ていないか調査している。

神田女学園高等学校

地球市民
「神田女学園高等学校周辺の地域交流を盛んにするために公園でイベントを開催」
今考えているイベント
・トイレの外装を子どもたちに。
・チューリップの球根を植える。

昭和女子大学附属昭和高等学校

難民の子供たちの貧困問題を解決するため、近隣の地域に限らず、全国で服の回収を行えるよう努力します。

正則学園高等学校

正則学園高等学校SDGsグループ
「校内でのSDGsの認知度を広めるために発表の場を数多く作ります。」
校内でもSDGsを知っている人が多くないので知ってもらうために、発表の場を数多く作っていきたいです。

東京都立国際高等学校

For
「ファストファッションに関わる労働状況や環境汚染の改善に向けてエシカル消費を推奨し、発信し続けます。」
私たちはファストファッションの生産状況を知り衝撃を受けたので、より多くの人にこの事実を知ってもらう。またこの状況を改善するためにエシカル消費を広める。どのように行動すれば良いのかわからない人の為にも私たちが具体的なエシカル消費の行動を提示する。

法政大学国際高等学校

エコ・アクション・プロジェクトチーム
私たちは今比較的安全で安心なまずまず豊かな暮らしの中にいます。でも実は私たちの生活は危険と隣り合わせです。豊かだと思っているものも、ある一面の一部のものでしかないことを私たちは知っています。
私たちはそれらを達成・克服するために活動しています。この活動を広めるために文化祭などの学校行事でプレゼンテーションなどを行い学内の意識改革をはかりたいと思います。

千葉大学

環境ISO学生委員会
「千葉大学から全国の環境への意識を高めるためにキャンパス内の環境啓発活動を強化し、外へ広げていきます。」
ISOだけでなく、新しくSDGsなどの考えを取り入れながら今やっている活動を継続して行い、時に見直しながらより良い活動を目指していきたいと思います。

東京都市大学

RCE横浜若者連盟
「横浜をより持続可能な地域にしていくために18番目の課題を見つけてとりくんでいく。」
持続可能な社会とは新たな問題を見つけ、それを解決できる社会だと思っています。そのためには地域を知って愛していくことが大切になってくると考えています。ぼくたちは新たな問題を見つけるために横浜を知れる場をつくり問題を解決できるような地域のネットワークをつくっていきます。

国連大学SDGs誌上セミナー

これまで「全国ユース環境活動発表大会」の全国大会が開催されてきたのは、東京・南青山にある国連大学です。この機関がどのような活動をしているかご存じでしょうか。国連大学、国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）の取り組みと、日々熱心に研究に励む研究員の活動をご紹介します。

国連大学（UNU）とは?

国連大学は、グローバルなシンクタンクであり、大学院教育・能力開発を行う学術機関です。世界12カ国に14の研究所があり、日本に本部を置いています。国連大学の使命は、人類の生存、開発、福祉といった緊急性の高い地球規模課題を、共同研究や教育を通して解決へと導くことです。

国連大学　Photo:UNU

国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）とは?

国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は、東京に拠点を置く国連大学の研究・教育機関のひとつです。研究所の活動には、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という3つの大きなテーマがあります。またUNU-IASは、国内外の主要大学との緊密な協力のもと、修士・博士課程、ポスドクフェローシップ、短期コースを実施しています。

インタビュー

国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）アカデミック・プログラム・オフィサー

リヤンティ・ジャランティ（Riyanti Djalante）

プロフィール：マッコーリー大学（オーストラリア）にて博士号を取得。2017年7月から、UNU-IASにてアカデミックプログラムオフィサーとして研究・教育活動に従事。2016年より気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書の執筆に携わるほか、統合防災研究計画（IRDR）の科学委員のメンバーなども務める。国籍はインドネシア。

気候変動と災害リスク軽減の研究を通して、災害から人々を守れる社会の構築を目指す

気候変動と防災分野での研究活動

私はUNU-IASで「地球環境の変化とレジリエンス」に関連する研究・教育活動を行っています。現在取り組んでいる事業例を以下にご紹介したいと思います。

一つ目は、最新の科学技術を災害リスク軽減に役立てる方法の研究です。災害リスクを最小限に抑えることは、持続可能な開発にも不可欠です。2015年開催の第3回国連防災世界会議において採択され、現在国際的な防災指針とされている「仙台防災枠組2015-2030」でも、イノベーションと科学技術をより広く一般に利用できるようにし、災害リスク軽減のための投資を行うことは、災害管理上、費用対効果が高い、と強調されています。

二つ目に挙げたいのは、私が2016年から執筆者の一人として携わっている、気候変動に関する政府間パネル（Intergovernmental Panel on Climate Change = IPCC）評価報告書の作成事業です。IPCC評価報告書は、政策を決定したり気候変動交渉に携わったりする立場にある政府関係者やステークホルダーに最新の科学的知見を伝えることにより、各国政府の気候変動政策の決定に科学的基礎を与える役割を果たします。2018年に公表されたIPCC「1.5℃特別報告書」は、地球の平均気温の上昇を産業革命以前と比べて1.5℃以内に抑えることが人間と自然生態系にとって有益であると述べ、気候変動の抑制に関する国連気候変動枠組条約に基づくパリ協定（2015年採択）において定められた気温目標を達成するための方策を論じています。

近年度重なる災害は気候変動によって引き起こされている、あるいは被害規模が大きくなっている場合があり、気候変動と防災の研究は密接に関係するものであると言えます。

スマトラ島沖地震被害の経験が、気候変動・防災分野での研究の道を選ぶ契機となった

私がこのような研究の道に進むことを選んだきっかけの一つに、私の出身地であるインドネシアが深刻な被害を被った、2004年のスマトラ島沖地震の体験があります。人々が災害によって甚大な被害を被る様子を間近に見聞きする中で、防災分野の重要性を痛感し、研究者としての道を志すようになりました。

災害リスク軽減を目指す研究活動が、人道的な貢献に繋がることを願う

気候変動をめぐる現状は、決して楽観的なものではありません。前述のIPCC「1.5℃特別報告書」においては、気候変動がさらに進行し、突発的な異常気象も多くなることが予想されています。一方で、各国政府が気候変動に迅速に対処する決断をしない場合も多くあります。災害は、人命、健康、経済、文化、環境に大きな損害をもたらします。中でも最も被害を受けるのは、災害リスクに対し脆弱性の高い国、特に開発途上国に暮らす、貧しい人々です。私の気候変動・防災分野での研究が、これら弱い立場に置かれた人々の災害リスクを軽減し、人道的な貢献に繋がることを強く願っています。

災害に強い社会を目指すためには

防災は、社会におけるサステイナビリティ（持続可能性）の実現に、不可欠な要素です。大切なのは、弱い立場の人々が取り残されることのないよう、経済と自然環境とのバランスを保つ方法を模索することです。また、災害による被害を最小限に抑えるためには、起こった災害に対処する短期的な対策ではなく、潜在的災害リスクを想定したインフラへの投資等を含め、長期的施策が必要となります。そのためには、まず一人ひとりが気候変動や災害についての関心を深め、知識を得て、防災意識を高めていくことが重要です。特に、若い世代の皆さんには、自らの選択が地域コミュニティの中で持つ意味を考えて、災害に強い社会の実現に向けて働きかけ行動していくことで、より良い未来の構築を目指して欲しいと期待しています。

国際防災デー（10月13日）を記念して2019年10月に開催したシンポジウム会場にて。国際防災デーとは、災害の軽減や災害への心構えを含む防災文化の国際化促進を目指して定められた日です。

全国11大学参加

第13回 環境マネジメント全国学生大会（2019年）

2019年9月10日・11日、千葉大学で「第13回 環境マネジメント全国学生大会」が開催されました。
全国ユース環境ネットワーク事務局は、この大会を視察。日頃から実践している環境マネジメント活動を発表し、SDGsを考え、大いに語り合っていました。
全国の大学が自主的に集まる全国学生大会、その内容をご紹介します。

環境マネジメント全国学生大会とは

2007年から「全国環境ISO学生大会」が開催され、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を取得した大学の学生団体が全国から集まり、毎年、情報交換や交流を行ってきました。2017年（第11回大会）より、ISO取得の有無に関わらず、もっと広く環境活動に携わる学生たちが集まる会へと進化し、「環境マネジメント全国学生大会」に名称が変更されました。現在は学内外においてさまざまな環境活動に取り組む学生たちが集い、互いの活動報告や分科会での意見・情報交換を行っています。参加大学が持ち回りで運営しており、今年度は千葉大学環境ISO学生委員会が主催しました。

第13回大会の概要

テーマ　SDGsの残り10年の今求められること
～変えることのできる未来　私たちはどう取り組むか～

日　程　2019年9月10日（火）・11日（水）

場　所　千葉大学西千葉キャンパス

主　催　千葉大学環境ISO学生委員会

参加団体・組織（全国11大学　14団体　学生108人）

岩手大学環境マネジメント学生委員会
岐阜大学環境サークルG-amet
信州大学松本キャンパス環境学生委員会
信州大学工学部環境学生委員会
公立鳥取環境大学学生EMS委員会
中部大学ESDエコマネーチーム
琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会
大阪大学環境サークルGECS
首都大学東京環境サークルnature
信州大学繊維学部環境学生委員会
日本工業大学学生環境推進委員会
千葉大学環境ISO学生委員会
三重大学環境ISO学生委員会
学生団体おりがみ環境チーム

大会パンフレット

分科会

キャンパスツアー

成果発表

実施内容

初日は参加した14団体の紹介プレゼンテーションがあり、各大学での様々な活動が共有されました。また、様々な大学のメンバーでグループを構成し、SDGsカードゲームでアイスブレイクを行いました。2日目にはキャンパスツアーで千葉大学の環境への取り組みがわかるスポットを巡りました。分科会ではSDGsの169のターゲットから決められた7つのテーマ（「貧困を援助する募金、大学生の私たちに身近なものとするためには」や「省エネを大学内で呼びかけるには」など）に分かれ、活発な議論が交わされ、最後にパワーポイントを用いて各グループが成果を発表しました。

実行委員長のコメント（千葉大学環境ISO学生委員会第16代目委員長　逸見るな）

今回は久々に関東での開催となったため、参加大学が増える努力をしました。おかげで、初めて参加してくれた団体もあり、幅広い活動を聞くことができてよかったです。分科会でのディスカッションではSDGsに関する理解を深められました。実現可能性のあるアイデアもあったので実行に移していけたら良いなと思います。

【参加団体募集中】　環境マネジメント全国学生協議会が発足しました

環境マネジメントの運営や環境活動を積極的に行っている日本の高等教育機関の学生団体が集まる組織で、第13回環境マネジメント全国学生大会で設立総会が行われました。持続可能な開発目標（SDGs）の達成と、学生の活動を通じた持続可能な社会の構築に貢献することを目的に、学生間の交流を促進するとともに、海外交流の窓口となる活動を行っています。全国学生大会の運営にも携わります。　詳しくはこちら　http://jsemn.org/

お問合せ先　環境マネジメント全国学生協議会事務局（千葉大学環境ISO学生委員会）
E-mail　info@jsemn.org

第17回 全国大学生環境活動コンテ スト（ecocon2019）

独立行政法人環境再生保全機構は、
全国大学生環境活動コンテストを共催しています。

第17回全国大学生環境活動コンテストが開催されました（開催報告）

主　催：全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
共　催：独立行政法人環境再生保全機構
　　特定非営利活動法人エコ・リーグ
協　賛：公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団
　　J-POWER 電源開発株式会社
物品協賛：協栄産業株式会社／株式会社クボタ
　　株式会社大王製作所／株式会社山櫻
後　援：環境省／読売新聞社／全国大学生活協同組合連合会
協　力：株式会社ダイナックス都市環境研究所

ecocon 全国大学生環境活動コンテスト

2019開催概要

「全国大学生環境活動コンテスト（ecocon）」は、環境に関心のある全国の大学生が１年に１度集まり発表・交流・学習を行うイベントで、企業、行政、学識経験者、環境団体などの社会人の選考委員を交え、１年間実施した活動の振り返り、評価を行うコンテストです。令和元年12月28日に、第17回全国大学生環境活動コンテスト（ecocon2019）が開催され、全国各地から15の学生環境団体が参加し、130名が参加しました。
持続可能な社会に向けて社会や学生環境活動が大きく変化していく中で、ecoconも大きく変わる必要があると考えました結果、従来のコンテスト形式ではなく、ワークショップをメインとしたイベントを開催しました。「次の一歩をみんなで考える」をテーマに、全国の学生環境団体や社会人選考委員、一般参加者など多くの方々を交え、持続可能性について議論しました。

プログラム紹介

開会式
今年度のecocon学生代表からの挨拶と、社会人アドバイザー16名の紹介を行いました。

活動紹介
今回ecoconに参加した15団体の活動紹介を行いました。活動紹介には今年度実施した特徴的な環境活動や次年度に向けた展望などを含めて紹介していただきました。
活動発表後には質疑応答を設け、他の学生や社会人などを含め、お互いの活動をより深く学ぶ機会となりました。

ワークショップ
今回のecoconのメインコンテンツであるワークショップを、「次の一歩を考える」をテーマに実施しました。
開始時は団体の垣根を超え、全参加者を混ぜた状態でワークショップを実施し、参加者一個人として自身の団体の魅力ややりがいなどの自己分析を行いました。他の参加者との意見交換を実施後、再び団体同士で集まり、他の団体との意見交換から見出した自団体の長所や課題などについて内部で議論し、その内容について各団体でとりまとめたものの発表を行いました。

閉会式・交流会
閉会式を行ったあと、有志の参加者を含めた交流会を実施しました。
交流会は55名程度の参加となり、日頃の活動の内容など、活動紹介やワークショップで話せなかった様々な話で盛んな交流が行われました。

開会式

ワークショップ

発表風景

交流会

ecocon 2019 参加大学（団体）紹介

東京都市大学
ISO学生委員会

東京都市大学横浜キャンパスが取得しているISO14001の取得維持と学内外の環境意識向上を目的に３つの部会（環境教育部会、省資源部会、省エネルギー部会）に分かれて幅広く環境活動をしています。

首都大学東京（東京都立大学）
環境サークルnature

首都大学東京環境サークルnatureは、「人×自然」を理念に、自分たちが企画したフィールドワークを軸とする活動を通して地域の環境について知る、考えるというサークルです。

芝浦工業大学
SDGs学生委員会　綾いと

学内のSDGsへの理解が浅い中、「１人でも多くの人にSDGsを他人事とせずに『問題意識』を持ってもらう」ことを目的に活動中。現在はSDGsへの関心や意識を高める為の環境を整える活動をしています。

北星学園大学
野原ゼミナール

北星学園大学経済学部経済学科の野原ゼミナールです。環境経済学を専門に研究しており、主な活動の一つに学食の食べ残しを肥料にした循環型農業を行っています。

近畿大学農学部
学生団体FeeLink

FeeLinkは、「次世代環境を切り開く人材を育成する」ことを目的に活動しており、人と環境の架け橋」になることをキーワードに、大学・NPO法人・企業と連携しながら、環境問題を啓発しています。

日本工業大学
学生環境推進委員会 S.E.P.C

本委員会は現在、２年生６人、１年生８人、計14人で活動しています。
企画としては週一で行なう学内のタバコ清掃、約月１で行なうエコキャップ回収、年に１回のリサイクルショップ、宮代町民祭りなどの企画を行ってます。

早稲田大学
学生環境NPO環境ロドリゲス

環境ロドリゲスは環境に強い意識を持つ学生を中心とする学生環境NPOです。私達は「学生が主体となって、多様なアプローチから環境問題の解決に貢献する」という理念のもと、９つの企画に分かれて活動しています。

信州大学松本キャンパス
環境学生委員会

松本キャンパス環境学生委員会では、バガスモールド（サトウキビの搾りかすから作られる土に還るお皿）を土に還す実験や、地域のイベントの参加・周辺地域のゴミ拾いなどの地域貢献活動を行っています。

大阪大学　環境サークルGECS

「『学生』という立場から環境問題の改善に貢献する」という理念のもと、大阪大学豊中キャンパスを拠点に大学内外で活動している大阪大学公認団体です。６つの班と１つの委員会に分かれ環境活動に取り組んでいます。

北見工業大学
環境保全学生委員会（KITeco）

北見工業大学がISO14001の認証を所得するにあたって発足した団体です。現在は、大学や周辺地域を対象として市民と学生が生活しやすい環境を作るための環境活動を行なっています。

芝浦工業大学
石垣島をもっと元気にするプロジェクト

私たちは、石垣島でのサンゴ礁の保全を目的としている団体です。サンゴの白化・死滅の様々な要因の中から人為的要因の一つである過度な赤土流出の問題を改善し、サンゴ礁保全を行うことを軸として活動を行っています。

北海道教育大学札幌校
北海道盛り上げ隊

北海道の農業や酪農について、実際に携わっている方達のお話を元に考えていく活動を行なっています。また、お話の内容を元に、農業や酪農について伝える活動に参加しました。

獨協大学
環境国際団体DECO

川に落ちている自転車やバイクを拾い上げる「サルベージ」や大学内でのPETキャップ回収、ゴミ拾いなど地域ボランティアを中心に活動しています。
日頃は部員同士で環境や国際問題についてディスカッションを行なっています。

東邦大学
東邦Ecolution

東邦Ecolutionとは、大学における課題を省エネ（eco）で解決（solution）することを目的に2017年に発足した学生環境団体です。現在学内では古紙回収活動や、レジ袋有料化などの取り組みもしています。

生物多様性わかものネットワーク

様々な問題に取り組み、生物多様性と共生する社会を目指すため、生物多様性やその問題を「普及啓発」していくこと、若者という立場で「政策提言」すること、活発な若者を繋ぐ「ネットワーク」を軸に活動しています。

環境情報Magazine

全国ユース環境ネットワーク

2020 Spring VOL.10

環境省からのお知らせ

GEOC Global Environment Outreach Centre 地球環境パートナーシッププラザ

EPO Environmental Partnership Office 環境パートナーシップオフィス

地球環境問題は人類が直面する重要な課題です。そのプロセスには複合的な要因がからんでいるため、問題解決には様々な分野の人や組織が協力し合う必要があります。そこで、個人、民間団体、事業者、行政等の各主体のパートナーシップによって持続可能な社会の実現を目指す拠点として設立されたのが GEOC です。

1996 年の開設以来、全国の地方環境パートナーシップオフィス（EPO）とも連携しながら、グローバルからローカルまでのつなぎ役として日々活動しています。

地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）と環境省地方環境パートナーシップオフィス（EPO）は、全国ユース環境活動発表大会を応援しています。

URL:http://www.geoc.jp/

環境再生保全機構からのお知らせ

地球環境基金はNGO・NPOの環境保全活動を支援しています

読み終わった本で環境保全活動に貢献しませんか？

本de寄付

「本de寄付」は本の買取金額が寄付金となり、NGO・NPOの環境保全活動に役立てられます。

①読み終わった本を段ボール箱へ	②「本de寄付」に申し込む	③送料無料でお引き取り	④買取金額が寄付される
<送れるもの> 書籍・コミック・CD・DVD・ゲームソフトなど	ホームページ、TEL、FAXからお申し込み下さい。	ご指定の日時に配送業者が無料で集荷に伺います。	ご寄付額を記載したお礼状を送付します。

<申し込み先>
TEL **044-520-9606**　FAX **044-520-2192**

「本de寄付」 検索

SNSでユース事業のほか、助成団体の活動、地球環境基金のイベント、講座、研修のご案内等を発信しています！
フォローお願いします！

Instagram　twitter

事務局だより　第５回全国ユース環境活動発表大会を終えて

全国ユース環境ネットワーク事務局です。みなさまのご協力により、第５回全国ユース環境活動発表大会を終えることができました。今年は過去最多の 162 団体からの応募をいただき、いずれも素晴らしい内容で、書類選考、大会での審査は、非常に難しいものでした。応募いただいた全ての高校生の皆さん、先生方に、心より御礼申し上げます。

今後も環境活動を継続し、次回の大会にもご応募いただきますよう、お願いいたします！

全国ユース環境ネットワーク事務局

全国大会におけるユニークな発表をご紹介！

学校法人鈴鹿享栄学園　鈴鹿高等学校

身近な海への関心を高めるために、高校生が伊勢湾に生息する生物のロボットを作って出前授業で活用しています。

大会当日も会場でロボットを展示し、審査委員からも注目を集めていました。綿密な観察に基づいて再現したカレイの繊細な動きが、こだわりのポイントだそうです。

京都府立木津高等学校

マイクロプラスチックに関する問題意識から、「柿渋」によって紙袋をコーティングすることで、ビニール袋に代わる袋の生産を企業とともに進めています。発表時には「柿渋」でコーティングした紙に、水を注いでも漏れないことを示し、その有用性をアピールしました。

参加者全員が SDGs バッジをつけて参加しました！

今年の大会では SDGs（持続可能な開発目標）を意識した発表が多く見られたように、高校生の環境活動においても SDGs は重要なテーマとなっています。全国大会では、環境省から参加者全員に記念に SDGs バッジが贈られ、大会期間中、皆でつけることで、持続可能な社会の実現に向けた強い意志と絆を共有しました。

配布されたSDGsバッジ

バッジをつけて交流する高校生

大会概要

日 程：令和２年２月８日(土)、９日(日)
開 場：国連大学、ベルサール八重洲
主 催：全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
（環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステイナビリティ高等研究所）
後 援：読売新聞東京本社
協 力：環境省地方環境パートナーシップオフィス（EPO）／
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）／ESD 活動支援センター
協 賛：キリンホールディングス株式会社／協栄産業株式会社／SG ホールディングス株式会社／株式会社タニタ

よろこびがつなぐ世界へ KIRIN　KYOEI　SgH　TANITA

発行
全国ユース環境ネットワーク事務局

〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8階
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金内 全国ユース環境ネットワーク事務局
Tel:044-520-9505　メール:youth@erca.go.jp
URL:https://www.erca.go.jp/jfge/youth/index.html

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK